

平成28年10月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成28年10月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださるようお願いいたします。

多賀多目的運動場「ダイハツスタジアム」が完成し、10月2日、こけら落としとして、日本フットボールリーグ（JFL）の公式戦「ヴァンラーレ八戸ーMIOびわこ滋賀」が開催され、ヴァンラーレのホーム戦史上最多の5,028人が応援に訪れました。

スタジアムはピッチとスタンドの距離が近く、大型ビジョンも設置されるなど、J3に対応した作りになっており、J3への昇格を目指すヴァンラーレのホームスタジアムとしてチームの活躍を応援します。

皆様も、引き続き、応援をよろしくお願いいたします。

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせください。よろしくお願いいたします。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸10月号 レポート

平成28年9月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

No.	項目
1	県発達障害者支援センター 県南初 八戸市に開設
2	八戸市 過疎地域活性化で総務大臣賞 南郷アート事業を評価
3	八戸港 全国初の専用システムで施行管理

【産業】

No.	項目
4	八戸市がロス総領事公邸で地場商品PR
5	八戸バイオマス発電所着工 2018年4月営業運転へ
6	2015青森県産リンゴ販売額 2年連続1000億円超

【地域】

No.	項目
7	台風10号被害 種差海岸「淀の松原」のクローツ倒れる
8	俳優の草刈さん、迫田さん 「南郷トミックング～GoGoなんごう」に参加
9	「世界黒にんにくサミット」八戸で初開催
10	宇宙飛行士・金井さんが米と八戸結び講演
11	八戸港に310キロのクローツ水揚げ 2年連続の大物
12	八戸署管内 飲酒運転23年連続県内ワースト 県内初 根絶条例制定へ
13	種差海岸のオオハシゴソウ 除草剤使い駆除検証
14	ヘルプマーク・カード 青森県が無料配布を開始
15	半世紀ぶりに「花小路」"開通"
16	全国消防救助技術大会 八戸消防本部が堂々入賞！
17	南郷地区でクイン用ブドウ初収穫
18	毎月1日「八戸らーめんの日」に ～"懐かしの味"ぜひ食べて～

【文化・スポーツ】

No.	項目
19	伊調馨選手 国民栄誉賞決定！！
20	ザンラルー八戸にJ3ライセンス交付決定
21	八戸三社大祭 世界遺産登録見据え日程変更の是非検討
22	屋内スケート場こけら落とし 「2020年世界オールラウンド大会」招致
23	伊調馨選手 故郷・八戸でパレード 4万人が熱狂
24	十日市秀悦さんが島守中で講演会 南部弁の魅力に触れる

【行政】

記事	概要
	<p align="center">県発達障害者支援センター 県南初 八戸市に開設</p> <p>青森県が、県発達障害者支援センター「Doors」を八戸市妙に開設した。「Doors」は、八戸市の社会福祉法人豊寿会が運営。スタッフ4人が、発達や就労に関する相談・支援、研修会などの普及啓発に当たる。県南地域の3市13町村を対象に、年齢を問わず本人や家族らの相談を受け付け、関係機関につなげる橋渡し役も担う。県内では2005年に青森市に整備されたが、支援人数が増加したため、16年度から県南地域（八戸市）と津軽地域（五所川原市）にも拠点を設けることにした。</p>
	<p>八戸市 過疎地域活性化で総務大臣賞 南郷アート事業を評価</p> <p>総務省と全国過疎地域自立促進連盟は9月7日、過疎地域の活性化に成果を上げたとして、八戸市など5団体を優良事例に選び、2016年度の総務大臣賞を贈ると発表した。八戸市は、南郷地区で取り組んでいるアートを活用した地域おこし事業が評価され、青森県で初めての受賞となった。南郷地区は、以前から地域主体でジャズフェスティバルを開催するなど文化活動が盛んで、市は2011年度から住民の協力を得ながら映画製作やダンス公演などを実施する南郷アートプロジェクトを実施。市外から招いたアーティストとの交流促進も行っており、モデル事例にふさわしいと評価された。</p>
(3)	<p>八戸港 全国初の専用システムで施行管理</p> <p>国土交通省八戸港湾・空港整備事務所は、八戸港でICT（情報通信技術）を活用した浚渫（しゅんせつ）工事を進めている。掘り出した土砂の量や、その土砂を使った埋め立て地の高さなどを効率的に測量し、工事の進み具合や品質を一元的に管理するのが狙い。建設現場での生産性向上を目指す国の取り組みの一環で、国の港湾工事でICTを活用するのは同港が全国で初めてなる。</p>

【産業】

記事	概要
	<p>八戸市がロス総領事公邸で地場商品PRへ</p> <p>八戸市が10月5日、米国の在ロサンゼルス日本国総領事公邸で「八戸の水産品と地酒のタペロンゼルスプロモーション」と銘打った催しを開く。総領事館の人的ネットワークを活用して現地の約50人を招待。八戸のサバ、イカ、ホタテなどの水産品と、県産品を主原料とする「できるだし」を使ったメニューのレシピを基に、公邸の料理人に調理をしてもらい「試食メニュー」として提供する。八戸市初の外務省（総領事館）との共催事業で、自慢の水産品と調理方法を現地のレストラン関係者や輸入業者らにPRし、八戸ブランドの販路拡大の足掛かりを築く。</p>
	<p>八戸バイオマス発電所着工 2018年4月営業運転へ</p> <p>住友林業、住友大阪セメント、J R東日本の3社が出資する八戸バイオマス発電は、八戸市河原木浜名谷地に建設するバイオマス発電所（出力1万2400キロワット）の工事に着手した。青森県南地方の山林や鉄道林の残材や間伐材から作った木質チップ、海外から輸入したバイオマス殻を燃料に、固定価格買い取り制度を利用して新電力会社に売電する計画。発電所の敷地面積は3ヘクタール。一般家庭1万7千世帯分に相当する年間約8500万キロワット時を発電する。2018年4月の営業運転開始を目指す。</p>

	<p>2015青森県産リンゴ販売額 2年連続1000億円超</p> <p>青森県が29日に発表した2015年産の県産リンゴ販売状況（15年9月～16年8月）によると、国内外の販売額は1098億円（14年産比6%増）となり、2年連続で1千億円の大台を突破した。品質、食味ともに良好だった上、大玉傾向で収穫量が多かったことなどが販売額を押し上げた。輸出も3万6304トン、142億8415万円で量、金額ともに過去最高を記録し、国外でも引き合いが強かった。</p>
--	--

【地域】

記事

概要

台風10号被害 種差海岸「淀の松原」のクロマツ倒れる

(7) 猛威を振るった台風10号の影響で、種差海岸景勝地の「淀の松原」のクロマツが相次いで倒れた。淀の松原は、深久保漁港付近から天然芝生地手前までの区間で、樹齢90年以上のクロマツが並木道を形成。今回の台風で松並木沿いの遊歩道がふさがれたため、八戸市は利用者の安全を考慮して歩行禁止にした。そんな中、同市シルバー人材センターの会員らが、遊歩道だけでも優先的に対処しようと、倒木の撤去や危険な木の伐採をボランティアで行った。

俳優の草刈さん、迫田さん 「南郷トビッキング～GoGoなんごう」に参加

(8) 「八戸市南郷トビッキング～GoGoなんごう」が9月3日、南郷の島守地区で開かれた。NHK大河ドラマ「真田丸」で真田昌幸を演じる俳優の草刈正雄さんと、矢沢三十郎頼幸役の迫田孝也さんがゲスト参加。草刈さんは「自然の景色に癒された」と、初めて訪れた南郷地区に満足そうな表情。特産のざるそばも味わい、同地区の魅力を満喫した様子だった。迫田さんは参加者と触れ合いながら、地区内の神社やつり橋、湧き水などの名所を巡る全工程を歩き「（風景に）懐かしさを感じ、時間がゆっくりと流れている気がした。」と笑顔で語っていた。

「世界黒にんにくサミット」八戸で初開催

(9) 黒にんにくを製造・販売する県内関係者らが企画した、初の「世界黒にんにくサミット」が9月6日、八戸市プラザホテルで開催された。6月に記念日登録された「黒にんにくの日（9月6日）」に合わせ初めて開催。全国の関係者をはじめ、中国や香港、タイなど6カ国から約420人が参加した。サミットでは、ルグセンブルクで開かれた日本との首脳会談夕食会で黒ニンニク料理を提供した現地の有名シェフ、レナト・ファゲロ氏が基調講演。「パリの市場で出会って一目惚れした。青森県産は品質が高く、他とは比べられない」と評価した。7日には料理グランプリやミニトークショーなどが行われた。

宇宙飛行士・金井さんが米と八戸結び講演

(10) 宇宙飛行士・金井宣茂さん(39)の講演会が9月10日、八戸工業大学第二高校で行われた。金井さんはインターネット電話「スカイプ」を通じ、米ネキサス州ヒューストンから同校全校生徒や同市内、階上町の中学生ら約700人にメッセージを送った。金井さんは元海上自衛隊の医師で、2004年から06年にはむつ市の自衛隊大湊病院に勤務。09年、宇宙飛行士候補に選ばれ、11年に宇宙飛行士に認定された。17年11月から約6カ月間、国際宇宙ステーションに長期滞在することが決まっており、現在ヒューストンで訓練を受けている。

<p>八戸港に310キロのクロアグロ水揚げ 2年連続の大物</p> <p>(11)</p> <p>八戸市の八戸港第2魚市場に、310キロの巨大クロアグロが水揚げされた。同港所属の小型巻き網船「成進丸」船団が、鮫角灯台沖合で漁獲。同船団は、昨年9月に304キロのクロアグロを筆頭に5匹のクロアグロを水揚げしており、船関係者は「2年連続でこれほどの大物が揚がるのは初めて」と驚いている。アグロは体長約2メートルで、背中が大きく張り出し、昨年のアグロよりも丸々と太った魚体。重量はエラと内臓、尾を切り落とした状態で310キロあった。</p>
<p>八戸署管内 飲酒運転23年連続県内ワースト 県内初 根絶条例制定へ</p> <p>(12)</p> <p>飲酒運転が後を絶たない八戸市では、地域ぐるみで飲酒運転をなくそうと、根絶に向けたプロジェクトが動きだした。八戸署によると、管内では飲酒運転の摘発件数が、1993年から2015年まで23年連続で、県内ワーストとなった。2016年は、9月16日現在で既に100件を超え、県内では最悪の状況。市内の交通安全関係団体が、市や八戸署と共に、市内全体で「飲酒運転しない・させない・許さない」署名活動を展開。青森県内で初となる飲酒運転根絶条例の制定を目指し、市民の機運を高める。</p>
<p>種差海岸のオオハゴゾウウ 除草剤使い駆除検証</p> <p>(13)</p> <p>三陸復興国立公園に指定されている種差海岸で、駆除対象となっている特定外来生物のオオハゴゾウウ。繁殖力が強く生態系を壊しかねない存在に対して、環境省が16日、薄めた除草剤を使う駆除方法の検証に着手した。鮫角灯台近くの斜面約2メートル四方で、スポンジに染み込ませた除草剤をオオハゴゾウウの葉の数カ所に付けた。ハヤギクやスツルソウといった在来種に影響がないか、2週間ごとに様子を確認する。他の国立公園でも導入されており、駆除作業の効率化が期待される一方、実用化に向けては固有で貴重な在来植物に影響がないかを慎重に調べる必要がある。</p>
<p>ヘルプマーク・カード 青森県が無料配布を開始</p> <p>(14)</p> <p>青森県は10月3日から、外見上は障がいがあると分からない人が、周りに配慮や支援を求めるときに提示する「ヘルプマーク」(外出時利用)と「ヘルプカード」(緊急時・災害用)を県内市町村担当窓口を通して無料で配布する。ヘルプマークは、交通機関で移動時や買い物などの外出時に、周囲に障がい者であることを知らせてもらうために、かばんなどに取り付けられるようになっている。配布対象は義足や人口関節を使用している人、聴覚障害、発達障害の人など外見では分からない障がいを持つ県内在住の人。国内では、東京のほか、京都、和歌山、徳島などがマークを採用。福岡、愛媛ではカードを導入し、県内では青森市が7月からカードを配布している。</p>
<p>半世紀ぶりに「花小路」“開通”</p> <p>(15)</p> <p>八戸市中心街の三日町と六日町のほぼ中間に位置し、みるく横丁と交差する「花小路」が9月26日、約半世紀ぶりに“開通”した。全長約180メートルの花小路のうち、通りをまたがるようにビルが立地していた区間(約40メートル)の“通行止め”が解消されることになり、行き来が可能になった。地元住民や地権者らが設立した花小路周辺地区まちづくり協議会は、段差の解消や路面の美装化などを通じて、市民が訪れやすい空間づくりを目指している。</p>
<p>全国消防救助技術大会 八戸消防本部が堂々入賞!</p> <p>(16)</p> <p>全国の消防救助隊員が一堂に会して技術を競う「第45回全国消防救助技術大会」(8月、愛媛県松山市)で、八戸消防本部から出場した2チーム、2個人が入賞した。全国大会は水上と陸上の2部門に分かれ、全国から約千人が競い合った。陸上は、壁を乗り越え、濃煙を突破するなど「障害突破」し、高さ15メートルのしごを登る「しご登はん」の部での入賞。水上は、水中にある結果案環に異なる結び方でロープをくり付ける「水中結果案環」の部での入賞となった。出場した隊員はこの結果を自信にし、普段の業務や災害支援につなげていきたいと話していた。</p>

	<p>南郷地区でライオンブドウ初収穫</p> <p>2014年度からライオン産業創出プロジェクトを進めている八戸市で、ライオンブドウが初めて収穫の秋を迎えた。南郷地区では葉タバコに代わる新たな作物の一つとしてライオンブドウの栽培に取り組み、現在は市の委託を受けた13人の生産者が約2.2ヘクタールの園地で18品種約2200本育てている。本年度は9品種が初の収穫期を迎え、市は同地区での栽培やライオン醸造に適した品種を絞り込むため収量や精度、酸度などのデータを収集する。また、6品種について県産業技術センター弘前地域研究所に委託してライオンの試験醸造を行う予定。</p>
<p>(17)</p>	<p>毎月1日「八戸らーめんの日」に ～“懐かしい味”ぜひ食べて～</p> <p>八戸市内の飲食店を中心に組織されている八戸らーめん会は、これまで10月1日と定めていた「八戸らーめんの日」を、9月から毎月1日に変更した。八戸らーめん会は、麺やしょうゆ、煮干しなど材料や味に基本形を設定し、八戸ブランドとして定着を図る。近年は、函館市など県外のイベントでも実演し、人気を博している。これから毎月1日は、会員の約20店が、八戸らーめんを注文した客に、100円引きやギョーザのサービスなど各店オリジナルの特典を提供する。同会は認知度を高めて消費拡大につなげようと、新たな記念日のPRを進めている。</p>
<p>(18)</p>	

【文化・スポーツ】

記事	概要
	<p>伊調整選手 国民栄誉賞決定！！</p> <p>政府は13日の閣議で、女子個人種目で五輪史上初の4連覇を果たした伊調整選手に国民栄誉賞を授与することを決めた。菅官房長官は会見で「伊調整選手は人一倍の努力と厳しい修練の積み重ねで、最後まで勝利を諦めず、金メダルを獲得した」と強調。4連覇の偉業を踏まえ、「多くの国民に深い感動と勇氣、社会に明るい希望を与えたことに顕著な業績があった」と授与の理由を述べた。青森県では初の受賞者となる。</p>
<p>(19)</p>	<p>ヴァンラーレ八戸にJ3ライセンス交付決定</p> <p>Jリーグは20日、都内で開いた理事会で、日本フットボールリーグ (JFL) のヴァンラーレ八戸にJ3ライセンスを交付することを決めた。ただ、J3昇格にはJFL4位以内、ホーム試合の平均入場者数2千人以上などの条件をすべて満たすことが求められる。4度目の申請で初のライセンス交付が決まったヴァンラーレは9月中にもJリーグ入会申請を行う。ヴァンラーレは現在、ホーム試合の入場者数が11試合で1万6073人、1試合当たり平均で1461人。年間順位は、残り6試合で、4位との勝ち点差100の8位。細越健太郎代表は「しっかりと成績を残し、Jリーグへの入会審査も通れるように努力したい」と話している。</p>
<p>(20)</p>	<p>八戸三社大祭 世界遺産登録見据え日程変更の是非検討</p> <p>「八戸三社大祭」(毎年7月31日～8月4日)の日程について、変更の是非に関して検討が進む方向となった。今年には三社大祭を含む「山・鉾・屋台行事」のユネスコ無形文化遺産への登録が見込まれる。見直しの必要性を唱える関係者は、伝統文化としての評価の高まり、かつて秋祭りだった歴史的な背景を指摘している。一方、青森県南地方最大の夏祭りとして定着しており、観光戦略上の影響を懸念する意見も根強い。今後、祭りの在り方を再考し、持続的な運営を模索する議論が加速しそうである。</p>
<p>(21)</p>	

屋内スケート場こけら落とし「2020年世界オールラウンド大会」招致

(22) 八戸市が2019年秋の供用開始を目指す屋内スケート場のこけら落としとなる国際大会の誘致で、小林眞市長は22日、日本スケート連盟の橋本聖子会長に、2020年の「世界オールラウンドスピードスケート選手権」の開催を希望する意向を伝えた。橋本会長は「連盟として実現に向けてやっていると述べ、国内候補地としての選定に前向きな考えを示した。日本スケート連盟は今後、理事会で国内候補地を決め、2017年4月1日までに国際スケート連盟に届け出る。国際スケート連盟は同6月に理事会で開催地を決める予定。

伊調馨選手 故郷・八戸でパレード 4万人が熱狂

(23) 青森県出身者として初の国民栄誉賞受賞が決まった伊調馨選手が24日、故郷・八戸市で行われた凱旋パレードと祝賀セレモニーに臨んだ。沿道には約4万人が駆けつけ盛大に祝福。パレード後、はっちの2階ベランダで行われたセレモニーでは、小林眞市長が伊調選手に市民特別栄誉大賞を授与。伊調選手はセレモニーで「たくさんの方に金メダルを喜んでいただき、本当にうれしいと笑顔を輝かせた。

十日市秀悦さんが島守中で講演会 南部弁の魅力に触れる

(24) 八戸市立島守中が21日、来年度の同校創立70周年を祝う講演会を開いた。八戸市出身のタレント、十日市秀悦さんが「イサバのキャチャ」の姿で「ふるさとづくりが大好きになるべ」と題して講演し、「南部弁にはすてきな言葉がいっぱいある。どんなに使ってほしい」と強調。生徒に南部弁の表現の豊かさや温かさを伝え、「地元言葉を学んで、ふるさと島守をもっと好きになってほしい」と語った。

東北復興を応援しよう!

会場

- A会場：中野サンプラザ広場
(メインステージ・アトラクション)
- B会場：中野駅北口・暫定バスロータリー
(青森人の祭典物産展)
- C会場：中野区役所前広場・区役所1階ロビー
(東北復興祈念展、東北復興物産展、
熊本物産展)

2016

東北復興大祭典

10/29 (土) 10:00~20:00
ねぶた運行▷17:30~18:30

なかの

プログラム

10/30 (日) 10:00~17:00
ねぶた運行▷13:00~14:00



東北復興大祭典のねぶた

ねぶた超人募集!

・衣装着用のごこと
 ・衣装レンタル(3,000円)は各日先着50名
 レンタル・着付の申込はC会場にて、運行2時間前まで受付

中野区のカートン・オフセットへの取組

中野区は、福島県喜多方市の「喜多方市森林整備加速化プロジェクト」の取組と連携し、喜多方市で間伐した森林のCO₂吸収面積を60トン分購入しました。その一部を活用して、「2016 東北復興大祭典」のイベント用紙等の印刷で排出されるCO₂を埋め合わせる「カートン・オフセット」を行い、地球温暖化防止に貢献しています

<CO₂排出量 19トン CO₂埋め合わせ量 19トン>

熊本復興のブースを設けました

主催：2016東北復興大祭典なかの実行委員会
 共催：中野区 (2016東北復興祈念展)
 東京青森県人会 (2016青森人の祭典)

- ※大祭典会場における「ドローン (無人航空機)」の使用は禁止です。
- ※人が密集した会場での「自撮り棒」の使用はご遠慮ください。
- ※ねぶた会場での「自撮り棒」の使用は禁止です。
- ※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

本プログラムで使用された紙は、東日本大震災で津波被害を受けて復興した三菱製紙八戸工場の製品です。

